News Release

住友電工
Connect with Innovation

2026 年 11 月 25 日
住友電気工業株式会社

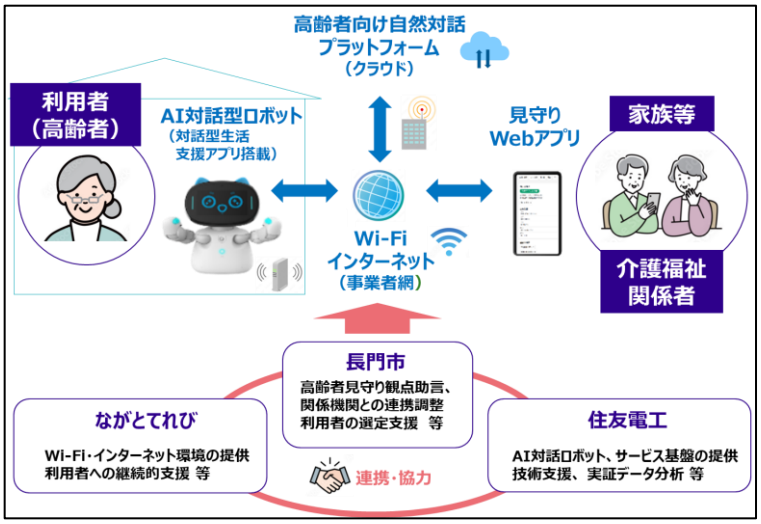
生成 AI 対話型ロボットで高齢者の暮らしを支援
～長門市・ながとてれびと地域見守りサービスの実証を開始～

住友電気工業株式会社（本社：大阪市中央区、社長：井上 治、以下「当社」）は、ながとてれび株式会社（代表取締役：藤永 義彦、以下「ながとてれび」）、山口県長門市（市長：江原 達也）と共同で、生成 AI 対話型ロボットを活用した高齢者向け地域生活支援モデルの実証実験を開始します。

本実証では、生成 AI を活用した対話型ロボットを高齢者宅に設置し、日々の声かけや予定案内などの生活支援と、家族・地域・介護関係者による見守りを一体的に提供する地域生活支援サービスの有効性と事業性を検証します。自治体・地域ケーブルテレビ事業者・技術提供企業の 3 者が連携し、生成 AI 対話型ロボットを活用した地域生活支援の取り組みは国内初となります[*1]。

高齢化や単身世帯の増加を背景に、独居高齢者の生活支援や見守り、ならびに家族、介護福祉関係者の負担軽減は、地域社会における重要な課題となっています。こうした課題解決に向け、当社は生成 AI を活用した対話型ロボット[*2]向けに、「対話型生活支援アプリ」、「高齢者向け自然対話プラットフォーム」および「見守り Web アプリ」の開発を進めてまいりました[*3]。

本実証実験では、生成 AI 対話型ロボットとの自然な会話を通じて、高齢者の日々の暮らしに寄り添いながら、生活状況の把握や継続的な見守りの実現を検証します。あわせて、家族や介護関係者が必要な情報を適切に把握できる環境を整えることで、高齢者本人の安心感の向上と、支える側の負担軽減の両立を目指します。さらに、地域における導入支援や運用体制も含めて検証することで、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる新たな地域生活支援モデルの確立につなげてまいります。



生活支援モデル／実証実験のイメージ

SUMITOMO ELECTRIC GROUP

■実証実験の概要

実施地域	山口県長門市
実施期間	2026 年 11 月～2027 年 3 月（予定）
実施対象	長門市内在住の高齢者世帯、介護施設利用者等
主な検証内容	■見守りサービスとしての有効性 高齢者がロボットを受け入れ、日々の生活に前向きな変化や QoL（生活の質）の向上、家族、介護福祉関係者の負担軽減が見られるかを検証 ■事業・運用性 設置工事や初期設定、利用者サポート、データ連携など、実運用に必要となる一連の業務において持続可能なサービス提供体制の構築可能性を検証
各社の役割	■当社　：生成 AI 対話型ロボットおよびサービス基盤の提供、技術支援、実証データの分析・評価　等 ■ながとてれび：Wi-Fi・インターネット環境の提供やロボットの設置、利用者への継続的なサポート　等 ■長門市　：高齢者見守り観点助言、関係機関との連携調整、利用者の選定支援　等

高齢者向け支援サービスを地域に定着させるためには、一人ひとりの生活環境に応じたきめ細やかな導入支援に加え、利用者本人やその家族および介護福祉関係者を継続的に支えるサポート体制の構築が重要です。当社は本実証実験を通じて、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現に貢献してまいります。

当社は今後も、AI や通信、映像技術を活用し、高齢社会における社会課題の解決と、安全・安心な暮らしを支える新たなソリューションの提供に取り組んでまいります。

*1　2026 年 9 月 当社調べ

*2　当社開発の「対話型生活支援アプリ」を搭載した NUWA ロボティクス製
コミュニケーションロボット「Kebbi シリーズ※」を使用しています。
当社が独自に高齢者向けにチューニング開発を行った AI 会話機能を適用し、
利用者ごとにパーソナライズされた自然会話を提供します。
※Kebbi Air-S、Kebbi3 は、NUWA ロボティクス JAPAN 株式会社の商標または登録商標です。

*3　当社プレスリリース「高齢者の生活支援に向けた対話型 AI ロボット用アプリを開発」
https://sumitomoelectric.com/jp/press/2025/07/prs093

以　上

SUMITOMO ELECTRIC GROUP